



経済学研究科・経営管理大学院

若林 靖永 教授

今月は授業にTwitterを導入されている経済学部の人気教授、若林靖永教授にお話を伺った。
(触媒)

研究内容

マーケティング・流通・商業を専門にやっているので、「単純にこれを研究しています」って言うのは難しいね。今は京都という街、京都というブランドをテーマにして研究に取り組んでる。例えば、京都の伝統産業の調査をしたり、商店街の取り組みに関する調査や提言をまとめたりしています。

他には、インターネットを使った新しい動きの中でマーケティングがどう変わっていったか、というのがもう一つの大きな研究テーマですね。最近ではmixiやTwitterなどのソーシャルメディアが、マーケティングを変えようとしていることが興味深い。

また、消費者が参加して作っていく組織である生協のマーケティングにも関わっていて、生協の消費生活についてまとめた『現代生協論の探求』という本も共著で出しています。

学問と出会い

僕の場合は、高校のときには社会科学や経済学の研究者になろうと思っていた。社会の問題を解決するのは経済学だと考えていたので、社会の医者としての経済学を将来研究するのが僕のテーマだった。ところが高校生なんて多少問題意識があっても、なんの知識も経験もない。そして大学に入って、生協の活動や講義を通していろんな出会いがあり、大学院に入るときにはマーケティングをやろうという考えに変わった。財政学とかじゃなくて、私たちの暮らしに影響を与える、日々の暮らしを応援する学問をやりたいと思って。

目標を持ったほうが良いと思うけど、目標通りにいかなくても失敗じゃないから。逆にうまくいかずに、いろんな出会いで変わっていくのが人生なんだろうな、と思っています。

Twitterの魅力

インターネットは、興味があることを追うのには向いているけど、興味がないことにはあまり出会わない。内向型の人間を作ってしまう傾向がある。それを防ぐものの一つが、Twitter。Twitterは自分が興味ある人をフォローしたつもりでも、フォローした人が自分の興味あることをつぶやき続ける保証はない。突然まったく別のことに会う可能性がある。僕は4,000人近くにフォローされているけど、授業のことだけでなく、子どもやマンガのこともつぶやいている。だから4,000個の出会いを生むかもしれない。そういったことがTwitterの魅力です。

Twitter (ツイッター) とは
ブログとチャットの間のようなコミュニケーションサービス。140字以内で「ツイート (つぶやき)」を投稿する。ほかのユーザーをフォローすることで、つぶやきをチェックできる。日本の月間利用者数は2010年4月時点で約1,000万人。

授業への導入

Twitterは授業でも導入しています。例えば月曜1限(前期)の「現代の経営学」という授業で、学生の発言を取り上げたり、そのやり取りを京大以外の人が見て発言したりしました。でも学内のインフラ設備が遅れていて電波が弱かったり、学生がTwitterをしていなかったりして、つぶやいてくれることは少なかった。基本的には学生が自主的に参加してもらって、モチベーションをあげることが大事なので、強制的に成績評価につなげることはしません。でも授業でわからないところをレスポンスしてもらうことで、僕は補足コメントができる。同じ内容を違う切り口で説明することで、わかる人にはわかる。授業にTwitterを導入することで、学生からの質問を聞きやすくなったり、どこかの社長や経営コンサルタントなど、学外の人の意見も聞くことができたりする。それが利点です。

学生に勧めたい3冊

一つ目は、どの分野でもいいから読んで意味がわからない本。難しい本と格闘しているうちに部分的にわかるようになる。それが考えるっていう行為なんだよ。特に古典と呼ばれる本はいいと思う。社会人になると忙しいから、古典とか読めるのは学生時代だけ。

二つ目は英語で書かれた本。今まで一冊も通読したことがない人は、易しい童話でもいいから読み通す体験をしておくべき。翻訳するという行為を忘れて、英語だけを読んでイメージできるようにするのが大切。

三つ目は本とは少し違って、21世紀としては不適切かもしれないけど、新聞を読むことは重要だと思う。ネットのニュースもあるけど、情報の網羅性と内容の深さで弱すぎる。新聞は世の中で起こっていることを網羅的に連続して見ることができるのが良いところかな。



名前 若林靖永
出身地 愛知県
Twitter @ywakabayashi

紹介 京都大学経済学部卒業、同大学院経済学研究科博士後期課程、博士(経済学)。現在は京都大学大学院経済学研究科、京都大学経営管理大学院教授。著書に『顧客志向のマス・マーケティング』など。ちなみに、一児の父親。

昔の学生と比べて

統計を取れば何か違いはあるかもしれないけど、変わってないといえば変わってない。自分から発信する人は少なかったし、今が悪いとかはない。学生が未熟なのは学生だからだし、夢見がちなもの、くだらないことで落ち込むのも、それは学生だから。政治的な関心とかもそう。学生は自分の考えだと思っているけれど、実は社会に流されているだけなんだよ。大人も流されているけれど、学生はもっと顕著で、自覚がない。「自分はこう思っているんだ!」と一生懸命言う学生がいるけど、ほとんどの人が受け売り。受け売り以外言えるわけがない。まだそんな知識も経験もないのが学生だから。20年前も30年前も一緒。だから君たちがもし1960年代に生まれたら、ゲバ棒持ってたかもしれない。でも今じゃそんなの考えられないでしょ? それはその時代の雰囲気の問題で、学生が悪い

グローバル化時代

楽天が社内公用語を英語にしたことで、面倒だとか、英語ができて仕事ができない人間が出世するようになる、とか言う人がいる。でも仕事ができない人間が出世するはずないから、結果的には英語も仕事もできる人間が育つことになります。京大を卒業して、社会でそれなりの活躍をしたいんだら、TOEICで800点は取らないと。それでも実際、国際社会で通用する英語じゃない。TOEICで800点を取ったり、大学4年間のうち1 Semesterくらいは海外に出て行ったりすることがスタンダードにならないとおかしい

よね。そうじゃない限り、君たちはどんどん少子化、高齢化で縮小していく国内市場だけをターゲットとしている産業でしか働けない。そんな産業で大きな役割を果たすのも難しいし、当然ビジネスチャンスも限られる。

学生時代っていうのは時間と暇があって、責任を取られない立場だから、恥はかくけどほとんど問題にならない。学生だから許してもらえてって意味では、学ぶのに向いてる時代なんだよ。

昔は大学時代に麻雀ばかりしていても麻雀の能力で出世してた。今どき、麻雀力を身につけても多分だめだね、そういう時代じゃないから。終身雇用神話が崩れた今、大学で専門を学ぶ、留学する、ボランティアやインターンシップに取り組む、ということを社会が要求している。学生にはもっとグローバルな視点を持って活動してほしいね。

—ありがとうございました。